

## 第15回 アイヌの伝統的生活空間の再生事業運営諮問委員会概要

1. 日 時：平成25年8月30日（金）10：00～11：50
2. 場 所：内閣官房アイヌ総合政策室会議室
3. 委 員：佐々木利和委員、加藤忠委員、川奈野惣七委員
4. 事務局：国土交通省北海道局総務課 小山アイヌ施策室長ほか  
文化庁文化財部伝統文化課 武藤専門官
5. オブザーバー：北海道 環境生活部 濱口アイヌ政策推進室長  
(公財) アイヌ文化振興・研究推進機構 西田事務局長  
(社) 北海道アイヌ協会 竹内事務局長
6. 議 事

### 【議題1】委員長の互選

- 加藤委員、川奈野両委員が、佐々木委員を推薦。
- 佐々木委員、委員長就任を承諾

### 【議題2】平成24年度アイヌの伝統的生活空間の再生事業に関する検証・評価について

#### <財団>

資料1により説明。

#### <加藤委員>

新ひだか町のイオルは順調に進んでいるのか。

#### <財団>

自然素材の育成地の造成が終わり、穀物の植栽を行っているところ。順調に進んでいる。

#### <加藤委員>

白老で行われている伝承者育成事業について、現在の研修生5名は意欲がありとても良い。

#### <佐々木委員長>

白老町の陣屋のガマの問題。これは、何度も話題にあがっている件である。ヨコストの湿原やポロト湖畔を利用することはできないか。

陣屋は史跡に指定されており、今後この地域で事業を進めるのは難しいと思う。これまでこのような場で言い続けているが、適正な植栽箇所を把握するためにも、改めて植生調査をしっかりと行うべき。

#### <加藤委員>

陣屋でガマを育成することになったのは、特別な経緯もない。他に最適な地があれば、陣屋にこだわる必要はない。

### <財団>

いま、候補地としてあげられたヨコストは私有地が混在している可能性があり、また、地盤調査を行っていないことから、砂地の可能性もある。砂地であれば、ガマは育たない。白老町に対して、良い場所がないか調査をお願いしているところ。

### <佐々木委員長>

平取町のガマの生育状況はどうか。

### <川奈野委員>

平取町では、二風谷ダムから移植しており、順調に生育している。ただ、今年はアブラムシが大量に発生し、被害を受けたので、来年はその対策が必要だと思っている。

### <加藤理事長>

イオルについては、各地の状況を是非見たい。委員で現地視察に行くことができないものか。

### <川奈野委員>

私もそう思う。また、財団が開催しているネットワーク会議についても、より密に他のイオル地域と情報を交換していきたいので、回数を増やしてほしい。

### <佐々木委員長>

事務局及び財団におかれては、現地視察等の件、検討いただきたい。

### <加藤委員>

鹿による樹木の食害問題について。白老では、鹿の被害はオヒョウが多いようだ。樹木は鹿に樹皮を食べられると、まもなく死んでしまう。平取町では鹿の被害はどうか。

### <川奈野委員>

平取町も同様に鹿の被害が多い。

### <佐々木委員長>

鹿対策については、アイヌの伝統・精神的にどうかという思いはあるが、現実的に発生している被害に対しては、なにかしらの措置が必要であろう。

### <財団>

鹿の被害は、イオル地域に限らず、オール北海道の問題である。イオル事業においても、試行錯誤をしながら取り組んでいる。

### <北海道庁>

鹿対策は全道的な問題である。鹿の有効活用等の対策を講じても、繁殖力のほうが強い現状にある。特に、鹿の問題は、農業問題がクローズアップされており、イオル地域での問題にまで目が行き届いていない。それぞれの地域において実施されている鹿対策を、イオル地域にも適応させることができないか、担当部門とも打合せをしたい。

### <加藤委員>

体験交流活動について、鮭の特別採捕の制度を活用して、地域の人々や子供たちと

一緒にアイヌの伝統的漁法を体験する際に、手続が認められずに、川岸に生簀を設置して行うよう指導されることがあった。これでは、アイヌの伝統的漁法を何も体験できていない。

#### <アイヌ協会>

鮭の特別採捕の制度は、参加する全ての者を名簿登録する必要があるなど、そもそも手続が煩雑となっており、広く一般の方々に参加・体験してもらうには、現状の制度では問題がある。

#### <北海道庁>

具体的な事例があれば、道庁にも相談してほしい。

#### <国土交通省>

具体的事例を踏まえ、課題を特定し、どのような対応ができるか検討したいので、是非声をあげていただきたい。

#### <川奈野委員>

伝承者育成事業について、今年度で2期生が修了する。この若者たちは、将来のアイヌ文化の伝承を担う大事な人材である。事業終了後の進路はどうなっているのか。新たな伝承者育成事業が、来年度から始まるとのことだが、修了生がそのような場で新たな仕事に就けるような配慮ができないだろうか。

伝統工芸の分野では、これまでも平取の地で学んでもらっており、引き続き、白老・平取と連携をしながら、事業を推進してほしい。

#### <財団>

研修生については、3年間の研修期間修了後、各自で職業選択をしてもらうことになっている。しかし、可能な限り、関連事業の指導者などの道筋を示していければと考えている。

#### <文化庁>

文化庁では、全道にある博物館の収蔵物調査を現在計画しており、そういった業務の中で、伝承者育成事業の修了生を活用できないかといったことを考えている

#### <佐々木委員長>

それは面白い取組である。文化庁には、是非よろしくお願ひしたい。

伝承者育成事業のカリキュラムについてであるが、第3期に向けて再構成が必要ではないか。第1期の時はかなり厳しいカリキュラムでスタートし、第2期を迎えるに当たり見直した経緯がある。

#### <文化庁>

今後、検討したい。

#### <川奈野委員>

自然素材育成事業について、自然素材利活用の調整に当たる場合は、昨年、平取・白老で各1回開催された。今後も継続して実施をお願いしたい。自然素材を供給するに当たり、国有林との連携は順調に進捗しており、これは関係者間で調整する場を設置

したことが大きい。他地域でも広がってほしいと思う。

**<佐々木委員長>**

イオル事業については、植栽がメインの現状の姿で良いのかがまず疑問。地域の特性、特徴を生かして、イオル同士で補完しあうようなかたちが良いのはないか。

イオル事業について、そろそろ一定の評価をしてもよい時期ではないだろうか。

**<加藤委員>**

イオルの再生には何十年もかかる。5年経過したから、もう良いだろうという意見もあるのかもしれない。ただ、現実としては、まだ何も進んではない。これからである。しかし、今後のイオルの在り方について、同じものを各地で目指してもどうかとは思う。

**【議題3】その他**

**<佐々木委員長>**

最後に、全体として意見・質問等はあるか。

**<川奈野委員>**

前回、辻井先生からも話があったが、イオル実施地域が増えており、それに見合う予算措置がなされるべきである。各地域の予算配分はどのようになっているのか。5地域の実施となると、計画していたことが思ったようにできないこともある。各地域の実情と事業計画を踏まえ、予算については協議をするなどして進めてほしい。

**<財団>**

イオル事業の予算については、各地域からの事業計画に基づき、財団において必要な予算額を積み上げ、算定している。引き続き、地域と相談をしながら対応したい。

**<佐々木委員長>**

国・道においても、平成26年度の概算要求について、例年同様、厳しい財政事情もあろうかと思うが、イオル再生事業の更なる推進に向け、最大限ご尽力いただきたい。

以上をもって、すべての議題に係る審議が終了となる。各議題について、委員の了承をいただいたということで、本日の審議内容は、アイヌ文化振興等施策推進会議において、アイヌ文化財団から説明することで良いか。

**<加藤・川奈野両委員>**

異議なし。

**<佐々木委員>**

それでは、以上で委員会を終了する。